

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 佐藤
日 時	令和3年6月22日(火曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午後 3 時 00 分
出席委員	◎赤坂、○奥野、田中、小川、藤本、木曾、菱田、(福井議長)		
出席理事者	【産業観光部】由良部長 [商工観光課]三宅課長、元古副課長、松浦観光振興係長 [農林振興課]松本課長、荒美食農ブランド係長 【まちづくり推進部】関部長、伊豆田事業担当部長 [都市整備課]清水課長、石田区画整理担当課長 [桂川・道路交通課]信部課長、鹿島副課長 [土木管理課]澤田課長		
出席事務局	佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員3名(山本、木村、松山)

会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

1 開議 (赤坂委員長あいさつ)

2 事務局日程説明

[事務局主任より日程説明]

3 所管分付託議案審査(説明～質疑)

[産業観光部入室]

[産業観光部所管議案審査]

・産業観光部長あいさつ

(1) 第1号議案 令和3年度亀岡市一般会計補正予算(第2号) 所管分

・所管課長順次説明(歳出歳入一括)

1 0 : 1 8

[質疑]

<木曾委員>

ウッドスタート事業について、近々に協定書を締結されるが、今後継続的にやっていくためにどのような計画を考えているのか。

<農林振興課長>

今後は、円卓会議や移動美術館を予定している。また、新生児に誕生祝い品として、地元の木材を使ったおもちゃをプレゼントしていく。財源は森林環境譲与税等で、森林整備も進めていくが、木育と2本立てで進めていきたいと考える。今、1年間に市内で500～600人の新生児が誕生しており、令和4年度から実施していく。全国で、木のおもちゃ美術館が5館あり、あと7館ほど設置される予定である。今後、木育円卓会議の中で、木育が実践できる木のおもちゃ美術館について、研究・検討していく。財源は、ふるさと納税企業版や地方創生臨時交付金等を活用して実施していきたいと考える。観光振興や経済の活性化も視野に入れて検討していく。

<木曾委員>

木育の中で、子どもたちに森林に親しんでもらえる教育はよいと思うが、森林環境譲与税の主たる目的は、森林をどのように守っていくのか、活性化していくのかが、課題である。そちらが、あまり進んでいない状況の中で、このようなことに森林環境譲与税を本当に活用してよいのか、もう少し議論していただきたいかった。一部の利用者にとっては、必要なことかもしれないが、木のおもちゃを渡しても、有効に活用されるか心配する。市民ニーズに合わせて、このような事業をスタートさせることが大事であるとする。出産前のお母さんに啓発したり、こども未来部とも連携が必要である。保護者の思いや効果を検証する必要があると思うがどうか。

<産業観光部長>

子育て・環境・地元の経済活性化など、いろいろとやっていく価値のある事業だと考える。円卓会議のメンバーについては、こども未来部も入っている。子どもの教育と合わせて、意見を聞きながら進めていきたいと思う。

森林環境譲与税の活用については、森林整備事業も進めていく。バランスを考えながら、予算を充てていきたいと考える。

<木曾委員>

こども未来部に負担がかからないようにお願いしたい。

<農林振興課長>

今後、農林振興課が主となって、木育インストラクターを育成していこうと考えている。全国で52団体が取り組んでいるので、そのような先進事例を参考にしながら、取組を進めていく。地域の現状を十分踏まえて、NPO法人がそのようなノウハウをもっているので、研究を重ねながら、よい方向に進んでいけるようにしていく。

<菱田委員>

ウッドスタート事業について、NPO法人が関わってやっていくということだが、業務委託料165万円の詳細な説明をお願いする。

<農林振興課長>

30万円がウッドスタート宣言の際の、円卓会議等の業務委託料、残りは、8月に実施する、移動美術館に係る業務委託料である。東京から、木のおもちゃを運送するなどの必要経費である。

<菱田委員>

木育はよいことだが、子育てひろば等におもちゃを提供して、子どもの様子を見ながら、プレゼントを決めてほしいと考えるがどうか。

<産業観光部長>

福祉との関係については、まずは、農林振興課で進めていきたいと考える。実際やってみて、希望や意見を聞いて、円卓会議を行い審議し、よりよい事業の推進に努める。

<菱田委員>

豊かな森を育てる基金を使うということだが、亀岡市にはどのくらい入ってきているのか。

<農林振興課長>

令和元年度から、森林環境譲与税が入ってきており、今年度は森林整備の実施計画をつくるため800万円の予算を計上している。それと併せて、森林整備のモデル地区として、昨年度、西別院町神地地区で、木材を集積するのに業務委託として、約200万円使っている。今年度は、集積のため約200万円を使う。現在、基金は約1,700万円あり、今後毎年、森林環境譲与税として、1,700万円ずつ

入ってくる予定である。令和6年度からは、森林環境税となる。今後10年間で、1億7,000万円入ってくると考える。

<菱田委員>

都市・農村交流事業経費について、西別院町犬甘野の季楽で餅つき機を購入されるとのことだが、どのくらいの売上げを見込んでおられるのか。

<農林振興課長>

資料を持ち合わせていないので詳細な数字は分からないが、機械を導入することによって、加工の回転を上げようとしている。この機械に対応するだけの売上げを上げてもらうことも、補助金を出す条件の一つになっているので、調べて後ほど報告する。

<菱田委員>

農業担い手づくり育成事業経費の農機具シェアリングについて、今後の計画は。

<農林振興課長>

現在、実証的に、旭町で進めている。7人が現在登録しており、スマートフォンを使って、予約等を行っている。現在は、トラクターのみのシェアリングなので、利用時間は伸びていない。実証を踏まえて、今後、新規就農者や、畑をする人に利用してもらいたいと考えている。優先順位をつけて、地域に計画的に配置していきたいと思っており、最終的には7地区ほどに、地域を区切らせていただこうと思っている。

<菱田委員>

畝成形機は、マルチのアタッチメントはついているのか。また、このトラクターの保険はどのようになっているのか。

<農林振興課長>

マルチのアタッチメントはついている。保険については、全て含んでいる。

<田中委員>

木育自体はよいことだが、目的に、「森林を守り育て」などと書かれているが、子どもにおもちゃを提供することだけで、どのくらい地元産木材の消費が見込まれるのか。また、これをやりながら、現実に亀岡の森林をどのように守り育てていくのかというもう一つの面が、もっと具体的にならなければならないと考えるがどうか。現在、木材が高騰しており、どのように地元産木材を使っていくのかが重要になってくる。また、「地域の課題を木で解決する方法」とは具体的にどういうことなのか。

<農林振興課長>

市内の森林整備は人工林の間伐をかけていくことや、災害の関係で森林が密集しており、山の表土が弱くなっている状況があるので、計画的に進めていく。今年度、地形調査や樹齢調査を行っていく。ウッドショックで、木材が高騰していることも認識しており、木材が高く売れば、業者も潤うし、また、森林整備がしやすくなるので、計画的に進めていく。木育円卓会議の中で、地域の課題として、いろいろな意見が出てきている。マイ箸や木のおもちゃ、お椀、お皿などの食器なども木育として考えている。ニーズをしっかりと把握して、よいものを届けられるように検討していく。

<小川委員>

観光推進経費の川遊びの事業主体は。

<商工観光課長>

契約までできていない。「いきものコレクションアプリ」の事業者に委託したいと考えている。

<小川委員>

対象者はどのような方なのか。

<商工観光課長>

子どもや親子連れを想定している。コロナ禍のため、広く周知するのは難しいが、市内と周辺地域に募集をかけていきたいと考えており、感染対策を十分にしていける。

<小川委員>

今後の活用の検証ができると思うので、安全管理をしっかりと実施いただきたいが、保険などはどうなるのか。

<商工観光課長>

保険等を含めて、十分対応していきたいと思う。

<木曾委員>

観光推進経費の「森のなつやすみ in かめおか」の財源が長寿社会づくりソフト事業費交付金であり、「経験豊かな高齢者や工芸作家」とあるが、夏休みなので、子どもなのか、それとも高齢者を主体にやっていくのか。

<商工観光課長>

交付金の趣旨を鑑み、地元におられる高齢の方や経験のある方が、参加者に自分の経験等を伝え、コミュニケーションの向上を図っていただく。

<木曾委員>

事業の内容がよく分からないが、何をするのか。

<商工観光課長>

地元の高齢者の方などが、講師になっていただいて、観光客等に物事を伝えていくという内容である。

<木曾委員>

チョロギ村と天然砥石館を支援するためだけの事業ではないのか。

<商工観光課長>

実行委員会が行う事業に対しての支援である。森のステーションかめおかを広く知ってもらうことと、施設の利活用の促進も目的にしている。

<赤坂委員長>

しっかりと管理していただきたい。

<産業観光部長>

コロナ禍が収束してくれば、観光に力を入れていきたいと考えている中で、森のステーションかめおかの観光につなげていきたいと思っている。内容もしっかりとチェックしながら進めていきたい。

<木曾委員>

事業を、補助金ありきで進めているように感じる。これをしたいから、予算を要求するというのであれば、もっと詳しく具体的に説明できると思う。とりあえず、補助金があるから、事業を委託して任せておこうと考えているように感じる。そのような事業は行政のチェックが行き届かないので、成功しないと思う。せっかく、よい補助金メニューを取ってきているのだから、しっかりと、事業計画やチェック体制が必要であると考えているがどうか。

<商工観光課長>

補助金を申請するにあたり、事業計画や予算の内訳などの計画を立てた上で、申請して採択された事業であるので、しっかりと計画どおり進めていきたいと考える。それぞれの事業が、それぞれの地域において、効果を発揮できるように関わっていききたいと思う。

<木曾委員>

申請したとおりにうまく進めていただきたい。行政として、しっかりとチェックして、

決算の際に説明できるようにしていただきたい。

<藤本委員>

観光推進経費の湯の花温泉への2,000万円の補助金の中に、宿泊者に対して、1人5,000円の補助とあるが、どのようにこのキャンペーンを周知するのか。

<商工観光課長>

各旅館からも発信していただき、市のホームページや広報誌、SNS等を通じて広く発信していく。

<田中委員>

「森のなつやすみinかめおか」の目的は変更できるのか。

<商工観光課長>

この目的で申請を出しているのので、変更はできない。

<田中委員>

「経験豊かな高齢者や工芸作家が地域の中で、それぞれの役割を見つけ、誇りをもつことで」という目的が、地域の高齢者や工芸作家は何の役割ももたないで平凡に暮らしているのかと思われないか。また、「誇りをもつことで」は、押しつけがましく言うことではないと感じる。それぞれ自分の人生を生きておられるので、「それぞれの役割を発揮していただき、コミュニティ活動の推進につなげていただくことを目的にする」というほうが、よいのではないか。

<産業観光部長>

亀岡市としても、そのような意味でこの目的にしたわけではないが、今後、言葉等に最善の注意を払いながら、対応をしていきたいと思う。

<赤坂委員長>

文言は変えられないのか。

<商工観光課長>

文言については、補助金要綱から引用しているところであるが、今後発信していく際には、議員ご指摘のとおり文言を変えていきたいと考える。

<福井議長>

ウッドスタート事業について、議会と一緒に宣言したいと言っていた。これについては、議会全体の話であるので、本日はしっかりと審議していただき、今後の幹事会で改めて一緒に宣言するかどうかを諮らせていただく。ここで、仮に議案を通したからといって、宣言を一緒にするという事にはならないのでご了承いただきたい。

<農林振興課長>

先ほど、質問いただいた、犬甘野営農組合の自動餅つき機について、回答させていただく。令和2年度の実績は、利用者数が2万2,000人であり、売上金額が1,830万円であった。令和5年度に、利用者数を4万4,000人、売上金額を3,482万円にしていくという計画を立てておられる。取扱量は、令和2年度の実績2,860キログラムを、令和5年度には、5,720キログラムに伸ばしていく計画を立てられている。

<赤坂委員長>

農機シェアリングについて、トラクターで道を走ったら、道がどろどろになるが、農機具を乗せて運べるトラックと一緒に貸さないのか。

<農林振興課長>

基本的には、畑で使用するのので、どろどろになりにくいと思うが、利用者に泥を落とすように徹底していきたいと思う。移動については、クボタと協議していきたいと考える。

<赤坂委員長>

今後ウッドスタート事業については、委員会でしっかりと審議していきたいと思う。木育はよいことだが、優先順位を考えて、森林環境譲与税をうまく活用しながらしっかりと計画を立ててやっていただきたい。

農業の担い手育成についても、予算が少なすぎると考える。しっかりと予算を投入していただきたい。

観光推進経費の湯の花温泉のキャンペーンについても、しっかりと実績を把握していただきたい。

[産業観光部退室]

11 : 20

[まちづくり推進部入室]

[まちづくり推進部所管議案審査]

・まちづくり推進部長あいさつ

(1) 第1号議案 令和3年度亀岡市一般会計補正予算(第2号) 所管分

・所管課長順次説明(歳出歳入一括)

11 : 36

[質疑]

<木曾委員>

道路新設改良事業費について、頼政塚の左折レーンの改良について、この予算で全て完了するのか。

<桂川・道路交通課長>

地権者が4名おられ、今年度用地買収と工作物等の補償を完了させ、来年度工事を完了させる予定で進めている。

<木曾委員>

スタジアムで試合等があれば混むので、できるだけ早く進めていただきたいがどうか。

<まちづくり推進部長>

今年度、用地補償関係を積極的に進めているところであり、予算が次年度早期に確保でき次第、工事に着手していきたいと考える。

<木曾委員>

市道並河蚊又線の進捗状況は。

<まちづくり推進部長>

市道並河蚊又線は、ほ場整備の余部・安町工区と連携して進めているところである。ほ場整備の換地手法の中で道路用地を見出させていただくことになっている。地区外である、京都縦貫自動車道側については、用地買収は終わっている。国道9号の日通関係の地区外についても、境界立会いや用地交渉を鋭意進めているところである。

<木曾委員>

市道認定しているので、市の責任として積極的に取り組んでいただきたい。市道認定した市議会の責任も問われることになるのでよろしくお願いします。

<まちづくり推進部長>

事業化していくためには、市道認定が必要になってくるので、速やかに事業効果を上げられるように頑張っていく。

<菱田委員>

道路新設改良事業費の3件の事業について、それぞれ幾らかかるのか。また、補償金5,000万円はどのような経費なのか。

<桂川・道路交通課長>

5路線あり、JR亀岡駅南の歩道等の工事が一番大きく1億円、桂川舟運歴史体験・展示施設へのアクセス道路の工事が1,700万円、公有財産購入費と補償金は、頼政塚交差点の左折レーンの部分である。建設事業関係委託料は、桂川舟運歴史体験・展示施設の登記料関係が含まれる。工事請負費で市道中矢田篠線の東つじヶ丘の市営住宅跡地に、スーパーマツモトができるが、そのバス停の設置工事に、3,500万円を計上している。

<赤坂委員長>

バス停は3,500万円もかかるのか。

<桂川・道路交通課長>

約100メートル市道中矢田篠線に面している土地を購入いただいたが、無償で寄附をいただけるということで、セットバックしてバスレーンを設ける予定である。売り払った市有地が高く、擁壁を造ってお返しする必要がある、費用が高くなっている。

<木曾委員>

反対側はどうなるのか。

<桂川・道路交通課長>

南側は現状のままになってしまう。

11:48

[まちづくり推進部退室]

[委員間討議] なし

4 討論～採決

[討論] なし

[採決]

・第1号議案 令和3年度亀岡市一般会計補正予算（第2号）

可決・全員

[指摘要望事項等]

<木曾委員>

ウッドスタート事業について、事業としてやっていくのはよいが、森林環境譲与税を使うのであれば、本来の森林整備を優先するべきであると考え。その事業だけで終わることのないよう、亀岡の森林を積極的に守ってもらいたいということを指摘要望していただきたい。

<赤坂委員長>

森林環境譲与税の使い方を含めて、ウッドスタート事業の内容について、漠然としているところがあるので、事業計画等をしっかりとつくるようにしていただきたい

旨を指摘要望していきたいと思う。

<木曾委員>

今、木材の価格が高騰しているので、チャンスであると思う。今整備しないとこの先はないと思うので、チャンスと捉えて森林組合を含めて、森林の保全と活用ができる体制づくりをしっかりとやってもらいたい。

<赤坂委員長>

文言等は正副委員長に一任願う。

11 : 53

<休憩 11 : 53 ~ 13 : 00>

5 行政報告

[まちづくり推進部入室]

[まちづくり推進部長あいさつ]

(1) 令和3年度国道423号（法貴バイパス）の事業内容について （まちづくり推進部行政報告）

[桂川・道路交通課長 資料に基づき説明]

13 : 06

[質疑]

<藤本委員>

曾我部町犬飼から上がってくところの説明をもう一度お願いします。

<桂川・道路交通課長>

道路の勾配は一律6%と聞いている。C工区・D工区・E工区と降りてきて、株式会社キョーテックの交差点付近で2.5%程度の平坦な道になる。この間に、登坂車線を1キロメートル設けられる。

<菱田委員>

以前に法貴谷川との取合いで課題があると聞いたが、解消されたのか。

<桂川・道路交通課長>

今年度、取合いの護岸工事を2か所進めていただいているが、京都府から問題があるとは聞いていない。

<木曾委員>

埋蔵文化財の関係は終了したのか。

<桂川・道路交通課長>

D工区の辺りに、法貴北古墳群があり、今年度調査を予定されている。もう一つは、犬飼遺跡について、今年度調査される。全部で3か所される予定である。

<木曾委員>

今年度で終わるのか。

<桂川・道路交通課長>

京都府に確認して報告する。

<木曾委員>

犬飼のほ場整備は全て完了して、道路の用地は確保されているのか。

<桂川・道路交通課長>

市道で施工する犬飼バイパスについては、現在は法貴谷川の付け替え工事を先行して進められておられ、完了すると、ほ場整備の工事と道路築造工事に入っていく予定である。道路用地については、今年度、国営のほ場整備側と協定等を締結して、用地買収費をお支払いするように、協議を進めているところである。

<藤本委員>

仮橋はどのようなものか。

<桂川・道路交通課長>

仮橋は重機等が渡るための工事用の仮設の橋であり、一般の車両が通る永久構造物ではない。

<赤坂委員長>

いつぐらいに開通するのか。

<桂川・道路交通課長>

京都府に問い合わせているが、完成年度については、はっきり言っていない状況である。山切りや河川の付け替えなど、難工事であり、国の予算の確保もあるので、明確には聞いていない。

<赤坂委員長>

この道路は大切な道路であり、雨が降ったら土砂崩れもするので、もっとしっかりとやってもらわないといつまでたってもできないと思うがどうか。

<桂川・道路交通課長>

今年も国からの補助金8億円を確保していただいているので、早期に進めていただきたいと促進協議会から要望しているところである。京都府からもできるだけ急ぐと言っている。

この30日に、国道423号整備促進協議会の総会があり、南丹土木事務所にも出席いただくので、地元からの強い要望もしていただく。常にこの協議会から要望もしている状況である。

<木曾委員>

起点は亀岡市から、終点は大阪市になるが、どこまで、国道423号が通っているか分かってもらっていないと思う。全体を通して、国道423号の整備を考えていく必要があると思うがどうか。

<桂川・道路交通課長>

国道423号整備促進協議会は、亀岡市のエリアだけの協議会である。大阪市北区を起点として、亀岡市までつながっており、第一次緊急輸送道路にも指定されている。京都府としても、京都のみち2040の中で、人流・物流・防災面でも大阪方面に向かう整備が必要であるとうたっている。大阪管内においても、部分的に整備を進めていただいている状況である。

<藤本委員>

関西の広域道路で、非常に大事であるので、止々呂美からの整備延伸も視野に入れて、促進をお願いしたい。

<木曾委員>

大阪万博が2025年に開催されるので、踏まえて整備をしていく必要があると思う。大阪府と京都府を網羅した協議する場所を整備する必要がある。その入り口になっている亀岡市は非常に大事である。

<まちづくり推進部長>

法貴バイパスについては、近年になって、予算確保ができてきた状況であり、令和2年12月には、部分的ではあるが供用開始もできている。始まったところであり、いろいろな課題もあるが、令和3年度も8億円以上の予算を確保いただいている。

全体を見据えて事業を進めていただくことも大事であり、今の部分を事業完結することを念頭におきながら、今後も南丹土木事務所に要望していきたいと思う。

＜藤本委員＞

国のほうにも積極的に要望していただきたい。

13 : 25

[まちづくり推進部退室]

[産業観光部入室]

[産業観光部長あいさつ]

（２）既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業について （産業観光部行政報告）

[商工観光課長 資料に基づき説明]

13 : 50

[質疑]

＜木曾委員＞

亀岡市が実施する事業以外の事業について、市としてどのように関わっていくのか。

＜商工観光課長＞

市としては、亀岡市全体の発展のために、今後の観光振興に向けての再編になるので協力していく。事業者に対する国のサポートもあるので、連携しながら事業全体を前に進めていきたいと思う。

＜木曾委員＞

期限が短い、年度内に全て事業を完了できるのか。

＜商工観光課長＞

完了しないことも想定できるが、その場合は補助金を返還することになる。申請したからには、全ての事業が完了できるように取り組んでいく。

＜木曾委員＞

完了できなかった場合、事業所はどうなるのか。市が負担しなければならないことはないのか。

＜商工観光課長＞

市が負担することは決してない。申請を出す際に、各事業所と調整しているので、期間が短いことも十分理解いただいている。2月末までに全て完了できるスケジュールを調整しているところである。

＜木曾委員＞

交通関係の事業は、幅広いメニューがあるが、どのように亀岡市がチェックするのか。

＜商工観光課長＞

今後、各事業者と国とのやり取りになってくる。だからといって、亀岡市が何もしないということではない。京都府や各旅行会社と連携する中で、全事業の確認をし、報告を受けながら進めていこうとしている。

＜木曾委員＞

全体の事業内容を明記してもらわないと分からない。事業単位ごとの内容を見せてほしいが出せるのか。

<商工観光課長>

細かな制度設計についてはまだ何もない。令和3年7月3日までに、各事業者が制度設計して、提出することになっているので、今説明している簡易なものしかない。この先提出された際には、報告させていただく。

<赤坂委員長>

令和3年7月3日以降に報告してもらえるのか。

<商工観光課長>

7月の月例で報告させていただく。

<木曾委員>

細かい内容が分からないということは、この予算はざっくりとした予算になるのか。

<商工観光課長>

そのとおりである。

<木曾委員>

そのようなお金の出し方はだめだと思う。国もいいかげんすぎる。事業計画がしっかりあって、予算をつけるのはよいが、そのようないいかげんな予算案を審議することはできない。予算はもっとシビアなもので、しっかりとした計画をもって、やっていかなければならないと思う。やるならしっかりとやって、事業者に効果があり、最終的に亀岡市の観光事業に高付加価値をつけていければよいが、本当に亀岡市で全てチェックできるのか心配である。補助金の返還など、いろいろな問題が出てくれば、亀岡市としてしんどい思いをしなければならないことになる。

<赤坂委員長>

今はどちらにしても分からないということなので、令和3年7月3日以降の定例会で報告をお願いする。定期的なチェックリストのようなものを作ってもらって、出してもらいたいがどうか。

<商工観光課長>

令和3年7月3日を目途に、各事業者が申請をされる。ハード面の整備については、期間が必要になってくると考える。申請を出すにあたり、しっかりとした予算の積算を出していただくことになる。中身の精査については、国が設置しているサポート事業者がチェックしていくことになるので、今後示していく。

<木曾委員>

コロナの緊急事態宣言が出たらどうするのか。

<商工観光課長>

不測の事態については、何を優先するかになると思われるが、状況を見極めて判断していく。事業主体である観光庁にも連絡を取って、協議していく。

<木曾委員>

感染に関しては、今後どうなるか分からないので、いろいろと想定して考えておく必要があると思うがどうか。

<商工観光課長>

コロナの影響著しい、観光事業者・交通事業者を支援するという目的で支援いただいた。一部ではこの秋以降の観光を見据えて取り組んでおられる。経済対策と感染対策は相反するところがあって、当然感染対策が一番重要であると考えているが、早めに仕掛けている観光事業者や自治体がある。亀岡市としても、せっかくこのような制度があるので、ぜひとも活用して、次の観光振興につなげていきたいと思っている。リスクマネジメントについても、当然考えていかなければならないと思ってい

るし、この先どう転ぶか不安定要素も多い中、ワクチン接種が大きな希望である。亀岡市の経済を維持成長させていく観点から、当該事業を安全にマネジメントしていくことが大事であると思う。リスクに対しても、十分注意しつつ、取り組んでいきたいと考える。

<木曾委員>

8月のオリンピックが一つの方向だと考える。オリンピックがうまくできれば、一つの流れができてくると思う。リスクマネジメントをしっかりと考えて、事業者と協議・連携していただきたい。

<産業観光部長>

この事業は、期間が短い中で進めていかなければならないので、私どもも不安をもっているが、アフターコロナに向けてすばらしい要素のある事業であると考えている。計画的には見えにくい部分もあるので、今後、委員会で報告させていただく。もう少し内容を詰める必要があったが、時間を要する除却工事などもあったので急きょ出させていただくことになった。今回の委員会でのご意見を踏まえ、市として、どのようなことができるのか、サポート事業者や国と相談しながら進めていく。

<赤坂委員長>

7月の月例で報告願う。よい事業であるので、しっかりと事業者と連携して進めていっていただきたい。

<奥野副委員長>

この予算の数字は、事業者から出てきたものなのか。

<商工観光課長>

計画する際に、各事業者と協議して、概算を出した。今後、これだけの補助をいただけることはないと思われるので、絶好のチャンスであると捉えており、亀岡市も事業者もこれをものにしたいと思っている。

<菱田委員>

短期決戦になるので、工程管理が大事になると思うので、追加資料としていただきたい。要望しておく。

<木曾委員>

期間の短い中で、世界大会の誘致に向けて、eスポーツの実証実験ができるのか。また、優勝賞金など賭博性があるかどうか分からないが、行政が関わってよいのか。

<商工観光課長>

今後、プロポーザル方式で精通する事業者等から提案いただいて進めていきたいと考えている。賭博性については、市がすることなのでそのようなことがないように進めていく。今後は大きな大会を見据えて、誘致ができるように試験的に取り組んでいく。

<木曾委員>

メリットばかり主張して、デメリットを見過ごすことがないようにしていただきたい。

<赤坂委員長>

亀岡市には、すばらしい本当のスポーツがあるので、ゲームは企業に任せてもらいたいと思うがどうか。

<産業観光部長>

eスポーツが世界的に流行している中で、サンガスタジアムの中の施設を有効に使っていこうとするものである。今後プロポーザルをしていく中で、いろいろなご意見を取り入れながら、スポーツもやりながら、eスポーツにも力を入れていきたいと思う。

<木曾委員>

e スポーツはスポーツという名称だが、はっきり言ってゲームである。ゲームなので、子どもにもあまり勧められない。大人が、一定のルールの中でやるのはよいが、子どもたちを参加させるのは、学力にも影響を及ぼすと考ええる。賞金が出るゲームを市民に推奨できるのかどうかである。市が関与する話ではないと思う。

<小川委員>

ナイトタイムエコノミー推進事業について、どのような経緯で出てきたのか。

<商工観光課長>

亀岡市の場合、京都市と隣接していることもあって、日帰りによる観光客の消費額が低くなっている。通過型観光になっているため、いかに亀岡市内に長く滞在してもらうかが重要になってくる。一つの手段として、国において、ナイトタイムコンテンツという夜の時間をうまく活用して、少しでも観光客に滞在してもらう施策を推奨している。駅の近くに多くの人を収容できるスタジアムがあるので、スタジアム内でプロジェクションマッピングを考えている。そのようなことをして、市内消費につなげていきたいと思っている。夜の時間を活用した、商品づくりを推進していく。

<小川委員>

既存のききょうの里などの観光地を使って、発展させていただきたいと思うがどうか。

<商工観光課長>

今私が言ったのは、一例であり、これに固執しているわけではない。今後、観光事業者と連携して考えていきたいと思う。

<木曾委員>

今ある既存の観光を生かしていかなければ意味がないと思う。ききょうの里やコスモス園、七谷川をライトアップするとか、そのような手法をどんどん取り入れていただきたい。コンサルタントは予算のかかるような、人を呼ぶようなことだけを考えられると思う。今までやってきたことを生かしてやっていくようなことを考えていただきたいがどうか。

<商工観光課長>

今いただいたご意見を参考にさせていただいて、取組を検討していく。

<菱田委員>

亀岡市は自然をアピールして、京都市ではできないことを出さなければならないと考える。プロジェクションマッピングは二条城等、京都市内のいろいろなところでやっているのだから、亀岡市に来なくても見ることができる。この時季、湯の花温泉では、蛍を見に行くツアーをやっている。これは、亀岡市ならではのナイトタイムコンテンツになると思う。今回実施時期が、10～12月なので、亀岡の霧にプロジェクションマッピングを映すような工夫をするなどしてはどうか。これらやるには、行政だけでは難しいので、観光業者や湯の花温泉観光旅館協同組合にヒントをいただいて、亀岡の夜の観光について考えるきっかけにしてもらってはどうか。

<商工観光課長>

亀岡市内には、魅力的に見せられるものがたくさんあるので、限られた時間の中での制度設計になると思うが、今いただいたご意見を踏まえて検討していきたいと思う。

<藤本委員>

城下町の周遊や農家民宿、朝市なども含めて検討いただきたい。

<商工観光課長>

今回は試験的な実証実験という形でさせていただく。この実証実験を見て、事業者等が「亀岡市でやっていける」と思えばやっていただきたいと考える。大きな視野で見て、次につなげていければと思う。

<赤坂委員長>

バスやタクシー会社とも連携してやっていくべきである。

<木曾委員>

川の駅亀岡水辺公園について、ＢＢＱ施設は造るのか。

<商工観光課長>

造っていこうと考えている。今年度は、試験的にいろいろな事業をさせていただく中で、住宅などがあるので、住民の方にご協力をいただきながらやっていく。

<木曾委員>

ごみの問題など、近所から苦情が出るのではないのか。周辺住民の方たちと協議をしっかりとしていかなければならないと思う。誰が今後管理していくのか。

<商工観光課長>

来年春から指定管理を設けて、施設の運営を進めていきたいと考えており、それに向けての準備として、今年度は施設の充実を図っていく。

<木曾委員>

地元住民との協議は全て終わったのか。

<商工観光課長>

この事業を進めるにあたって、協議会をつくっているが、その中には、千代川町や馬路町の自治会長にも入っていただいている。事業を実際にやってみて、できるのかどうか、ニーズがあるかどうか精査していく。地元の方を中心に、モニターとして参加いただく。

<産業観光部長>

自治会と話を進めているところである。

<木曾委員>

地元住民としっかり協議しているのか。

<商工観光課長>

自治会と連携する中で、今津区の住民の方に参加・体験していただいてご理解をいただくようにする。

<木曾委員>

ＢＢＱ施設を造る前に話をしなければならぬと考える。できてからでは遅いのではないのか。

<産業観光部長>

現在、お話をさせていただきながら進めているところである。

<赤坂委員長>

トラブルが後々起こらないようにしていただきたい。

<小川委員>

安全管理や防犯がしやすいような整備をお願いする。近所の人たちと連携しながらやっていただきたい。要望しておく。

[産業観光部退室]

6 その他

(1) 議会だよりの掲載内容について

<赤坂委員長>

記事のスペース上、本日審査した中から、1～2項目程度でお願いしたい。意見を願う。最終日に補正の追加提案があるので、仮に項目を決定し、再度掲載事項を確認する。

<菱田委員>

ウッドスタート事業について、いろいろな意見が出ていたので掲載してはどうか。

<赤坂委員長>

ウッドスタート事業について掲載することとしてよいか。

(了)

<赤坂委員長>

文言については、正副委員長に一任願う。

(2) 次回の月例開催について

<赤坂委員長>

7月には、決算分科会で、事務事業評価に向けた協議として評価事業の選定等も行いたいと考えている。日程について、7月27日、午前10時からとしてよいか。

(了)

～散会 15:00